

IBD診療における腸管エコー (IUS) の活用ガイド

腸管エコー (IUS) は、非侵襲的でリアルタイムな評価が可能のため、IBDの経過観察において非常に有用なツールです

腸管エコー (IUS) が選ばれる理由

患者負担の最小化：前処置不要



絶食、下剤、腸管洗浄が原則不要で、来院後すぐに検査が可能

高い安全性と非侵襲性



放射線被曝や造影剤アレルギーのリスクがなく、繰り返し評価に最適

経済的なモニタリング



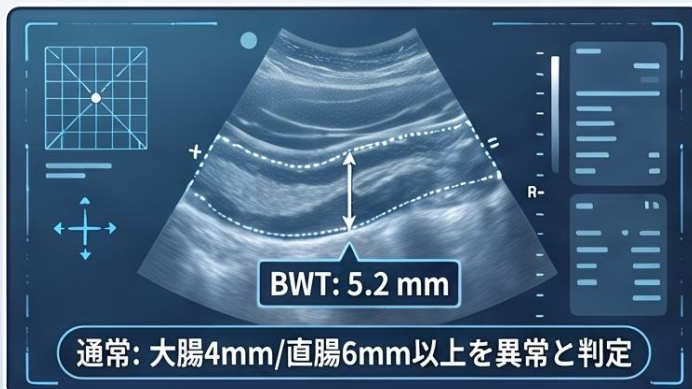
内視鏡やMRIと比較して検査費用が安価に抑えられます

主要なIBD検査手法のコストとリスクの比較

	検査負担	主なリスク
腸管エコー	 約2,040円 (3割負担目安)	なし
大腸内視鏡	 約15,500円～ 19,200円	 穿孔、出血、 麻酔リスク
MRIエンテロ グラフィー	 約9,900円	 造影剤 アレルギー

炎症活動性を評価する3つの指標

腸管壁厚 (BWT) の精密計測

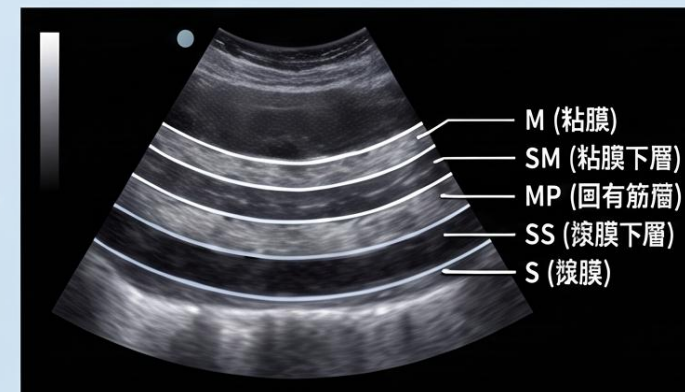


血流シグナル (CDS) の評価



カラードップラーを用い、壁内の血流の有無や程度から炎症の強さをスコア化

壁層構造 (BWS) の鮮明度



粘膜から漿膜までの5層構造を確認し、炎症による構造の乱れや消失を評価